



今月のテーマ 「ナースコール or 専用受信器どちらで報知？」

離床センサーが作動したことを知らせる方法は、ナースコールと、専用受信器の2通りがあります。ほとんどの病院にはナースコールの設備があるので「ナースコール連動タイプ」を選択するケースが多いのですが、ナースコール設備のない特殊病棟やグループホーム、一般家庭などでは専用受信器を選択されます。お使いいただく環境や介護者の状況によってどちらのタイプが有効かを見極めることが必要ですね！下記にポイントをまとめました！

		メリット	デメリット
ナースコール連動タイプ	<p>部屋 ナースステーション</p> <p>センサーが作動するとナースコールを押した時と同じように報知します。(PHSにも連動)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 距離に関係なく確実に報知できる。 専用受信器タイプより安価 	<ul style="list-style-type: none"> 離床センサーと通常コールの区別がつかない。

● ナースコールと報知音を識別したい場合

ナースコール連動タイプのセンサーが報知すると、ついつい普通のコールと同じように返事をしてしまうので、「離床センサーとナースコールとの鳴り分け」を希望されるユーザー様は少なくありません。しかし、通常は離床センサーの報知とコールの鳴り分けをすることは出来ません。※一部のナースコールシステムでは鳴り分けが可能です。

● 専用受信器で離床センサーの報知とナースコールを識別

専用受信器タイプを使用することにより、ナースコールの報知音と区別が出来ることはもちろんですが、センサーごとに報知音や表示を設定することができます。

		メリット	デメリット
専用受信器タイプ	<p>部屋 ナースステーション</p> <p>メロディ</p> <p>ハイパー受信器 10</p> <p>ハイパー受信器 10：スタッフルームに設置し報知。無線通達距離：約 100m（見通し）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 報知音をナースコールと識別できる。 現行タイプは報知音に録音機能搭載 介護保険に対応しているタイプもあります。 	<ul style="list-style-type: none"> スタッフルームに人が居ないと対応できない。 電波通達距離に制限がある。 ※専用中継器を使えば距離を延ばせます。
	<p>部屋 巡回中</p> <p>メロディ</p> <p>ポケット受信器</p> <p>ポケット受信器：携帯して自由に移動できます。無線通達距離：約 80m（見通し）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 携帯できる。 チャンネル表示によって自由に着信音を設定できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 携帯している人しか対応できない。 電波通達距離に制限がある。 ※専用中継器を使えば距離を延ばせます。

